

DAS KAPITAL

2024年/5月学習会の案内 第63回「資本論を読む会」

5月27日（月曜日）午後6時30分Zoomで開催

次回は「第5節 資本主義的蓄積の一般的法則の例解e」[岩波文庫(三)p316-]。

4月22日開催した「資本論を読む会」には久しぶりのOgさんの参加もあり13人でやりました。テーマは「c移動民」「d恐慌が労働者階級の最高給部分に及ぼす影響」の二つ。内容は前回に続き「例解」（＝実態例）が中心なので、難解な問題はあまりなかったように思えます（皆さんもそう言っていました）。レポートはKatoちゃんでした。

「c移動民」は「その起源を農村部にもち大部分は工業に従事するひとつの人民層」ですから、現代風に言えば「飯場を渡り歩く労働者」みたいなものか…。皆さんイギリス労働運動の歴史などを勉強されてきて、エンゲルスの「イギリスにおける労働者階級の状態」とか、世界労働者運動史、労働大学発行の労働運動史などを使った歴史考発言が続きました。

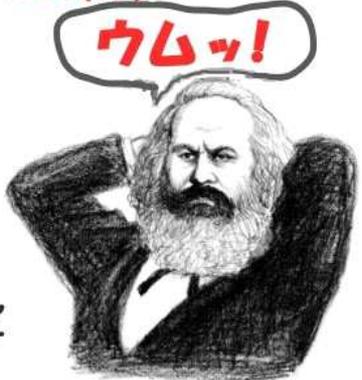
少し議論になったのは「d恐慌が労働者階級の最高給部分に及ぼす影響」のくだりにある「労働者階級中の貴族」（p267）。「オッ、この時代に労働貴族と呼ばれる人たちがいたのか!？」と、でもよく読んでみると、労働者としては、比較的「恵まれた」層の部類には入るものの、「彼ら自身が被救護的貧窮の境まで追いつめられている」（p272）ギリギリの状態にあったようです。次回は「eイギリスの農業プロレタリアート」、レポーターはSakaオヤジさんです。よろしくお願いたします。

Special Study 6月10日(月) pm6:30-

トマ・ピケティ

21世紀の資本

「資本論を読む会」別教室



それと今回は日程案内だけですが、6月10日にトマ・ピケティの「21世紀の資本」を別教室・自由参加でやろうとなりました（↑上記）。「支局にも関わってもらったら…」との声もあり主催は検討中。ピケティはいわゆるマルクス主義者ではありませんし、色々と評価が分かれるところもありますが「現代（ハイパー）資本主義を分析し『新しい社会主義』論を検討する上で必要」との声もあります。新著「資本とイデオロギー」までやることにするかどうかは未定。乞うご期待!

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/> 「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから -Katiちゃん

第5節 資本主義的蓄積の一般的法則の例解 c移動民

・移動民とは、多くは農村出身者で、主に工業的な現場に仕事があるときに雇われ、資本の都合により、あちこちを移動して働かされる。仕事がないときは野営して過ごした。

・大規模投資の事業では、企業家が彼らに小屋(宿舎)を供給するが、それは衛生管理が悪く、天然痘等伝染病の発生源となっていた。

・鉱山労働者の小屋は、水の設備、トイレもなく、1室に多くの人数を詰め込み、家賃、水代を収奪され、12ヶ月契約で縛られている。

d恐慌が労働者階級の最高給部分に及ぼす影響

・恐慌が、労働者階級の最高賃金層、労働者階級中の貴族に対する影響は、1866年5月の大銀行の破産を皮切りに金融会社の倒産が相次ぎ、全産業に波及し、失業者が急増した。

・ロンドン東部の労働者居住区で極貧層が増大した。そのうちの約2割が、6~8ヶ月前まで最高賃金の労働貴族だった。

・イギリスの資本家たちに、労働者の楽園といわれたベルギーだが、その実態は、標準労働者家庭の年間収支、栄養事情は、兵卒、水兵、囚人と比較して、囚人より劣っていた。

・労働者家庭は、最も苦しい窮乏を覚悟してやり過ごしているが、生活手段の騰貴等で破滅する。これが、「労働者の楽園」である。実際「(別名)資本家の楽園」では物価が少し変化しただけで、死者と犯罪の数も変化する。